

事業者向け 放課後等デイサービス自己評価表

評価人数 7名

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	7			・2階も活用し、おおまかな利用のきまりも定着しているため、20人定員でも差し支えないと考える。
	②	職員の配置数は適切であるか		7		・必要以上に手をかけず、必要最低限の人数で支援に当たれていると思う。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		7		・現在、必要とする利用者さんがいない。
業務 改善	④	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	7			・うまくいったことだけでなくその逆のことも話題にし、その背景を探ったり別の手立てを考えたりして、支援にいかしている。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	7			・改善のための評価であることをスタッフにも周知し、単なる集計ではなく評価の低い項目を次年度の改善点につなげている。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	7			・公開前に、スタッフと分析を行い、来年度に向けた改善点を示せるよう努力している。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		7		・第三者による評価については不明。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	7			・月に一度必ず行っている。話を聞くだけでなく参加型の研修になるよう工夫し、支援に生きるよう努力している。
適切な 支援 の 提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	7			・保護者や利用者さんの声も聞きながら自立に向けての目標や課題は何であるか考え、支援に反映させている。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		7		・ツールだけに頼らず、目の前の子どもの姿から、目標や課題や手立てを考えるよう努力している。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	7			・準備だけでなく、活動のねらいや役割分担などを検討し、どの子も無理なく活動に参加できるようにしている。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	7			・保護者の評価にも「家では経験できないことを経験できる」という声をたくさんいただいている。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	7			・長い時間をあきずに友だちとかかわったり活動に参加したりしている。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	5	2		・作成は目的ではなく手段なので、目の前の子どもをしっかりと見て、目標や課題や支援を考えることが重要だと考えている。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	7			・単なる確認ではなく、昨日からの引き継ぎや支援のポイントなどを確認するミニ研修的な時間ととらえている。

	⑩	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	1	6		・その日にうちに周知しなければならないことは必ず行うが、緊急性のないことは翌日の朝の打ち合わせで必ず確認している。
	⑪	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	6	1		・記入ではなく、表れの背景を探りよりよい支援につなげるための場と位置付けている。課題は全員で共有している。
	⑫	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	6	1		・スタッフの思いだけで支援するのではなく、保護者さんや子どもたちの考えも支援に反映できるよう心がけている。
	⑬	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	7			・単なる預かりではなく、将来の自立や自活につなげる力を身につける場所と位置づけ、保護者支援も含めた支援を行うよう心がけている。
	⑭	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	7			・参加するだけでなく、他事業所や華機関との意見のすり合わせや役割を確認し、自事業所でできる支援を持ち帰り今後活かせるようにしている。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑮	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連）を適切に行っているか	7			・学校との連携を密にとるように心がけている。単に下校時刻や行事の確認だけでなく、気になる子どもの表れや支援や成長などについても情報交換している。
	⑯	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		3	4	・現在、医療的なケアが必要なお子さんの利用はない。日頃の顔色や体調などのチェックは必ず行い、異常が認められたら早めに手を打つようにしている。
	⑰	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか		7		・相談事業所や保護者さんの声や体験などをとおして入学前の様子を知り、スムーズな利用ができるよう心がけている。
	⑱	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか		7		・まだ高等部の卒業生は送り出していないが、送り出した場合は相談事業所をとおしてその後の様子を知ることは必要だと考える。
	⑲	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	7			・スタッフに紹介し、外部研修にも参加するよう呼びかけ、参加したスタッフも何人かいる。
	⑳	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか			7	・子どもどうしのかかわりはないが、スタッフは情報交換をするよう心がけている。
	㉑	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	7			・地域おこしの会には入れていただき、情報を発信したり地域行事には積極的に参加したりしている。
	㉒	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	7			・表れの共有だけでなく、その原因を探るよう心がけている。好ましくない表れに対処するのではなく、好ましくない表れが起こらない環境を作ることが必要だと考える。
	㉓	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	7			・悩みには耳を傾け、我が子をプラス評価できるような考え方や接し方をアドバイスしている。
	保護	⑳	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	7		

者への説明責任等	③①	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	7			・言いつばなしではなく、その後の様子も必ず聞き取るよう心がけている。
	③②	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	5	2		・今年度は1回しか開催できなかった。好評で保護者間の情報交換や交流にもつながったので、来年度は3回は開催したいと考える。
	③③	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	7			・経験のあるスタッフが対応し、解決策が見えるようなアドバイスをするよう心がけている。難しい問題は、決して即答せずに持ち帰り、スタッフ間で周知し対応策を考えている。
	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか		4	3	・会報を発行するにはいたっていないが、フェイスブックやLINEアカウントや活動の写真などを活用し様子を伝えている。
	③⑤	個人情報に十分注意しているか	7			・個人情報の漏洩は大きな不信感につながるので、扱いには留意している。
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	7			・言葉でなく表情やしぐさで自分の気持ちをくみとってもらえたことは大きな安心感につながることをスタッフにも具体的な事例をとおし伝えている。
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか			7	・地域の方を招くことはないが、草薙カルテッドにも加えていただき、いただいた地域行事には積極的に参加している。
非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか		7		・作成してあるが、保護者のへの周知について来年度に向けての課題だと考える。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	7			・定期的な訓練や非常食を食べる経験やLINEアカウントの覚知訓練などをおこなっている。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	7			・研修に位置付けている。「ここまでなら虐待にならない」ではなく、そういう状況にならないような環境作りや支援について考えている。
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	7			・あらかじめ伝えたり事後に保護者に伝えたりするだけでなく、そうなるに至った原因や経緯を探り、強い指導をしなくても済むような支援方法を考えている。
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか		7		・アレルギーのあるお子さんの利用はない。好き嫌いのあるお子さんに、どうすれば自分から口に運べるようになるか手立てを考えている。
④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	5	2		・事故やけががおきたりおきそうになったりした時には、必ずその原因を探り、再発防止につとめるよう努力している。	